

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	197600364		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおやふね		
所在地	石狩市親船町20番地1		
自己評価作成日	令和5年9月20日	評価結果市町村受理日	令和5年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197600364-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者様一人一人の特性を把握し残存機能を引き出す事や機会を作り、あたたかく見守りその人らしい生活ができる様に支援しています。 コロナ感染症で、地域の方々との交流等が行われない状態から少しずつ、感染対策を行い散歩に行く際は笑顔で挨拶を心掛け、関係性を作っています。 医療面として週に1度の訪問看護、2週に一度の訪問診療にて入居者様の体調管理を行っています。 急変時には、24時間病状相談、緊急連絡が取れるように体制作りが行われています。 体力低下を防ぐ為にレクリエーション活動を無理なく参加して頂けるように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>散歩コースに弁天神社や寺院、川辺などがあり、自然環境と静かで風情ある土地柄の住宅地にある開設12年目の事業所である。平屋建て1ユニットで花の時期にはスロープ沿いに美しく植栽がなされ、利用者をはじめ行き交う方々が談笑する場ともなっている。内部も全体的に明るく清潔感や開放感があり、壁面装飾は葡萄に笑顔の顔写真を添え季節に楽しさを交えた演出である。現在、地域包括支援センターから認知症カフェ再開の提案があり、検討に向かっている。利用者の意思決定支援に優れ、自らの意思に基づいた生活ができるよう支援を行っている。利用者個々にあがれ食べたいこれが食べたい、帰りたい、出かけた、職員へは人生の先輩として接遇の未熟さを指摘する場面もあるなど、忌憚ない意見を言える環境を整えている実際の現れであり、プライドを持って生き生きと自分を出せる日常が生み出されている。意見等は様々な支援に反映させ、相乗的に職員の対人援助の学びに繋がっている。周辺環境を生かした散歩は楽しみとなり、各種体操や歩行運動、午後は利用者個々の趣味嗜好に合わせた楽しみ事を時々職員も一緒に行っている。おやふね会議では、1つひとつの支援の意味や根拠を共有し、方針を統一して介護支援に取り組んでいる。理念にある「我が家」とはどんな我が家なのか、利用者も理念を音読しているのも権利擁護の趣旨として特筆できる。自分の意思でのんびりと、自然と笑顔になれる、理念の体現が確認できる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で作成した理念をホーム各所に掲げ、ケアをするときの目標としてとしており新しい取組を行う際には、理念に即しているかを確認しています。	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ5項目の理念を標榜し、事業所内要所への掲示や利用者が理念を音読する機会があり、共に暮らす我が家となるよう職員の意識づけにもなっている。支援や行事ごとにも理念が生かされ、全体のものとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ、感染症の為行えないことが多いが笑顔と挨拶を心掛け交流が出来ることを、目指しています。	行事的な相互交流は自粛中であるが、散歩時に地域住民等と挨拶を交わしたり、花の種のお裾分けや手作業に使用するチラシを届けてくれている。立ち寄り際には会話し、自然なつきあいのもとで交流している。町内会に加入し、資源回収に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外回りに花を置く等、地域の方々との話題作りを行い世間話で、繋がり理解や交流をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年6月より対面での運営推進会議を実施サービス実施内容、行事活動報告、事故報告等の話し合いを行い、そこで出た意見等を参考にして運営に生かしています。参加できなかったご家族様に、会議議事録などを送付しています。	運営推進会議は参集にて開催し、各種報告事項や構成員からの提案事項等を協議している。運営状況は詳細な報告と情報提供がなされている。会議案内・議事録を関係者全員に送り、家族へは写真付き個別の手紙を同封し発送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に定期的に入居状況の情報提供を行っています。入退きの相談や状況報告、勉強会などの連絡などで協力関係を築いています。	市の担当者とは、運営に係る案件や制度上での指導を仰ぐなどして協働関係を築き、適正な運営の維持、向上に努めている。市は、介護相談員派遣事業の活用により毎月、相談員を事業所に派遣し、利用者面談を実施して意見等を聞き取るなどしており、介護サービス全般の向上に向け協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束マニュアルを参考にして勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束等の適正化のための指針、不適切ケア防止委員会要綱を定め、不適切ケア(身体拘束・虐待)防止委員会とこれらに係る内部研修を定期開催している。今年度は身体拘束の理解、高齢者虐待防止を学んでいる。玄関は昼夜施錠しているが、利用者の外出を制止するものではなく、防犯上の理由によるものである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議等で、虐待防止の話し合いの場を持ち情報の共有を行い虐待が見過ごされることが、無いように職員全員で注意を払い、防止に努めています。		

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会は開催されており、参加して学ぶ機会をふやしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分に説明を行い、理解、納得を図っています。改正の際は、本社より書面での説明と電話連絡、ホーム来訪時に管理者からも説明、納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様来訪時や電話連絡時に積極的に近況報告や意見を聞き申し送りやカンファレンスなどで内容を確認し、運営に反映させるように努めています。	利用者は何でも意見が出せる環境にありその都度反映させている。帰宅の訴えには意志を尊重しつつ自ら最良の判断ができるように対応し、食べたい物の提供や、言葉使いの指摘を受けた際は謝罪している。家族からは衣替えの通知時期を早めになどの意見もあり、個々の希望に応じ対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議等で職員が意見交換を行ったりする他随時意見があれば対応しています。行事計画は職員が交代で担当し、運営に参加してもらっています。	年2回、及び必要時に管理者が職員面談を行い、意見や希望等を聞いている。月1回、おやふね会議を開催し利用者カンファレンスや業務案件について意見討議を行い、より良い利用者支援と業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事部より職員に対して就業環境、希望調査、ストレスチェック等のアンケートを毎年行っており、意見、職員の状況が反映されやすい環境ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で取り組んでいる社内研修のなどに参加し職員を育てる取組をおこなっている。Eランニングを利用して、介護業務研修を全職員におこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの集まりに参加し、情報共有周知。同法人内部研修を通じて交流する機会を設け、サービスの質の向上への取組をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談等させて頂き、心配な事、楽しみにしている事、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族ごとに、異なるニーズや方向性に対応する為、入居前に面談を行い、より良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族記載のフェースシートや他所の情報と現状が違うことがあるが「その時」で見極めて変更して、必要な支援が出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを優先しお互いに信頼関係を作り快適に過ごせるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況をご家族様に報告し、ご家族様と、一緒に考え本人様に対して何をしたらよいか確認し行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの物・写真等を持ってきてもらっています。	家族との直接の対面が再開され、居室でゆっくりと過ごせるようにサポートしている。手紙や電話は、利用者個々の希望に応じて支援している。写真で今年の石狩鮭祭りの様子を利用者へ伝えたり、散歩は懐かしい場所へも行き、利用者同士会話を弾ませるなど親しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要以上の介入はせずに入居者様同士の会話を楽しんで頂いていますが、孤立することの無い様に介入することもあります。		

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、相談対応などの支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の望む暮らしに向け職員一同支援に努めています。	職員は日々の暮らしの中で利用者と自然体で会話し、思いや意向、訴えを受け止めている。身近な話から、興味や関心事を引き出し検討したり、難しい場合は、推察や家族から情報収集し把握している。年2～3回、私の暮らし方シートを用いて情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、ご家族様からの情報提供を大切にしながらその人らしい生活ができる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やカンファレンス等を通じて現状の確認と把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常業務等の報告から情報を得ています。またご家族来訪時などに意見を求め基にしカンファレンスで介護計画を作成しています。	毎月のおやふね会議で利用者カンファレンスを実施し、状態像を話し合い、課題整理統括表、評価表に反映させている。本人、家族の希望や意向を反映させ、利用者にとって安心できる暮らしの計画書を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記載して、職員全体で情報共有し介護計画の見直しに活かしています。連絡事項などはノートや毎日の申し送りなどで対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務をあまり詰め込みすぎず、急なニーズに対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ、感染症の為行えないことが多いが笑顔と挨拶を心掛け交流が出来ることを、目指しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療はご家族同意のうえで開始し、その他の必要な受診はご本人、ご家族と相談し受診しています。	月2回、協力医療機関の内科・歯科の訪問診療、週1回、医療連携で訪問看護の健康管理支援の体制を整えている。専門他科受診の際は、協力医療機関が他医療機関と連携し必要な医療が受けられる態勢である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護により、日常の健康管理を行い必要時にはいつでも連絡、相談ができる体制を調えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携を結んでいる病院はもとより、その他の地域の病院とも連絡をとり、情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応の話し合いを行い、説明等を行い同意を得ています。	「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用契約時に家族へ説明し同意を得ている。真冬の緊急時の訪問診療が難しい事もあり、重度化した場合は特別養護老人ホーム等への移行を主としている。その際は施設見学に同行するなど、家族の希望に沿う移行支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に対するマニュアルは全員で把握しています。コロナ感染症の為研修会等で情報共有周知は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、防火設備会社の協力を得て年2回避難訓練を行っています。	令和4年10月風水害時の確認・避難・職員連絡の図上訓練、令和5年4月日中・9月夜間想定で地震から火災発生想定での避難訓練を実施した。地域協力者、災害備蓄品を確保している。自然災害発生時における業務継続計画を策定している。	夜間帯の職員1人体制時における、避難誘導訓練を積み重ねる事としているので、その実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方々に合わせた声掛けや対応をし、ご本人のプライドを傷つけないように配慮をしています。	自尊心を傷つけない対応に気をつけているものの、時に利用者からお叱りを受け、直ちに謝罪している。支援を通じ人生の大先輩から教えを得ている。個人記録類の管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけではなく、自己決定ができるように声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体調等に気をつけ一人一人の生活リズムに合わせた支援ができるように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替え準備をご本人様と一緒に選びその人らしいおしゃれを楽しんでいただいたり、訪問理美容で好きなヘアースタイルをして頂いています。		

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、食器拭き等をして頂いています。楽しい話をしながら、次につながるように支援しています。	彩りや味付け、食べ易さに配慮し美味しく食事ができるようにしている。通常の食事や季節行事食の際に利用者のリクエストに応えたり、戸外でのサンドイッチパーティーやホットプレートを使用した食事も人気である。利用者は積極的に食事に係る手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態や水分を提供し、チェック表で水分量の把握等を行い支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの入居者様の能力に合わせ、介助や声掛けを行い、口腔内の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄間隔を把握し羞恥心に配慮して声掛け、誘導行っています。トイレで排泄出来る様支援しています。	利用者1人ひとりに合わせた排泄支援を行い、声かけ誘導の言動に配慮している。職員と手をつなぐなどして、自らトイレ排泄に行く気持ちを抱けるようにしている。排便日の間隔などを見極め、適切な排泄に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品摂取やラジオ体操等で便秘予防に取り組んでいます。訪問診療時の際にも医師への相談を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を固定せず、タイミングを見計らってお好きな時間に入浴して頂き入浴剤等で楽しんで頂いています。	曜日や時間を設定せず、利用者のタイミングや入浴の意思決定ができた時に対応し、基本週2回、入浴している。声かけから浴後のドライヤーまで同じ職員が支援している。仲の良い利用者同士一緒に入浴することもある。好みの湯温や多量の入浴剤を用意し、楽しめる入浴に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活習慣に合わせ環境整備を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員がいつでも確認出来るように設置しています。種類や量などの変更があった際には、申し送りや日誌を用いて全員に周知。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味嗜好に合わせ、楽しみを持てるように支援しています。		

ふれあいの里グループホームおやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策も行いながら、近くを散歩しています。地域の方々との交流を楽しみに挨拶を心掛けています。	近隣にある弁天神社や寺院、温泉などの場所も散歩コースに取り入れられている。歩きながら風情を味わい、花々を見たり、カモメを見たり、海の匂いを感じ、利用者同士色々と話をしながら楽しむ時間となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で個々の預かり金は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿うように対応しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、落ち着いて過ごして頂ける様に環境作りに努めています。	玄関はガラス張りで開放感があり、全体的に清潔感のある明るい造りである。居間・食堂と面するウッドデッキは焼肉や外気浴で有効活用がなされていたが、老朽化により今夏、撤去された。行事の壁面制作は温かみがあり、季節を感じるモチーフの飾りもある。エアコン、床暖房を設備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は、お好きな場所でお好きなように過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様と相談し出来るだけ本人様が、使用している物、使い慣れたものをお持ちいただき、心地よく過ごして頂いています。	居室入り口には職員手作りの名札を設置し、室内には床暖房、クローゼット等の備え付けがある。馴染みの家具や生活用品類が持ち込まれ、愛着のある品々やテレビ、仏壇を置いている方もいる。個々の状態により居室環境を整え、安心、安全に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、室内全てがバリアフリーになっています。トイレの場所など分かりやすく表示しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおやふね

作成日：令和 5年 11月 2日

市町村受理日：令和 5年 11月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間帯の職員1人体制時における、避難誘導訓練を積み重ねる事としているが、現在車椅子対応の入居様が5人で、非難に時間がかかることが課題・他の職員も車通勤で職場到着までに時間を要する。	近くの住民様等の協力をお願いし、常に連絡ができる体制を作りたいです。	運営推進会議で、議題にあげ協力をお願いすることと、挨拶運動を行っている面識の在る近くの住民様にお願いします。活動を続けて協力者様を増やしていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。